

## 文化・芸術

### 「ややくまの」

2016年、ミクストメディア  
カンバスボード45・5寸×38・0寸

#### 難波多輝子 (1960年)

バリエーションに富んだゆるやかな長方形の色面がちりばめられています。色彩は並び、重なり、覆われ、あるいは突き出たりししながら律動しています。筆触一つ一つを確かめながら筆をすすめていく、そこには静かな息づかいが感じられます。

難波多輝子さんは、日々の感情や記憶、眠りの中でみる夢といった人の内面世界に思いをめぐらせながら描いてきました。「色」について、前は「光」を思ったが、今は移りかわるさまをイメージするといいます。

染、織、デザインを学び、ファイバーアートに憧れた1980年代の制作を経て、90年代初めから絵画制作に向かい、並行して木版画をはじめました。本作では、アクリル絵の具に透明な油彩を重ねて描いています。題名の「やさしいまち」とは、2001年から暮らす桐生のこと。まちを歩いていて、ふと、受け入れられた感じがしたと振り返ります。かつて自身がこのまちから肯定された感覚、「暖かな解放感」をにじませる一点です。

(小此木)

### 《名画の扉》

大川美術館企画展から

